

佐久間高等学校でガイダンス



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、9月14日（水）、県立佐久間高等学校（浜松市）において1・2年生32名に対し、自衛隊の活動等についてガイダンスを行った。

佐久間高等学校からは、昨年度5名の生徒が防衛大学校を受験しており、自衛隊に関心の高い学生が多く在籍していることから、より多くの生徒に対して受験への関心を持ってもらうべくガイダンスが実現した。

ガイダンスは約40分間で、防衛大学の紹介から自衛隊の任務、隊員の一日の生活、災害派遣や南極観測支援といった幅広い自衛隊の活動について説明を行った。

生徒から自衛隊へのイメージを聞いたところ「毎日訓練をしている」「規律正しく厳しい」「銃を持って走っている」など、体力勝負の厳しい世界という印象の回答が多く聞かれた。しかしながら、各部隊の日々の活動や民生支援、特別輸送航空隊、国際平和協力活動等の説明をしたところ、初めて知る幅広い自衛隊の活動に驚き興味や関心を示していた。

今回のガイダンスは、制度説明ではなく自衛隊の活動や任務について知ってもらうことが主目的であり、メディアで見る自衛隊の姿や漠然としたイメージであった自衛隊が、現役自衛官から詳細に説明を受けたことで理解が深まった様子であった。

静岡地本は、今後もこのような学生に直接説明できる機会を効果的に活用し、自衛隊への関心や興味を高め、自衛隊の活動や任務に関する正しい理解を深めてもらえるよう努めていく。

静岡県自衛隊遺族会の追悼式参列を支援



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、10月8日（土）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行なわれた「静岡県自衛隊殉職隊員追悼式」に参列する静岡県自衛隊遺族会の支援を行なった。

本追悼式は、任務遂行中に殉職した隊員を偲び、板妻駐屯地司令・山之内竜二1等陸佐を執行者として、県内遺族11名及び来賓の参列を得て、屋外では激しい雨が降り注ぐ中、厳粛かつしめやかに執り行われた。

静岡県自衛隊遺族会長・平松玲子氏と板妻駐屯地司令による慰霊碑献花の後、追悼式典会場に移動し、遺族をはじめ参列者による献花と儀仗隊による弔銃が行なわれ、殉職隊員の冥福を祈った。

式典後に行われた昼食会では、遺族代表の平松会長が殉職隊員の思い出を回顧しつつ哀傷の気持ちを抑えながら、式典への感謝と昨今頻発する災害派遣等で昼夜を分かたず任務を遂行する現役自衛隊員の労をねぎらう謝辞を述べた。

静岡地本は、今後も遺族の方々に寄り添い、共に悲しみを共有し、最大限の支援に努めていくとともに、殉職隊員の意志を受け継ぎ、我が国の平和と安全が末永く保たれるよう、任務を地道に遂行していく。